

研究発表のアンケートより（一部抜粋）

1 学年を参観した方のご意見

- ・児童一人一人が自分の意見（順序についての考え）をもち、発表することができていた。手立てに対する発問やスモールトークを行っていたからだと思った。
- ・発問の工夫がされていたことで、児童が普段生活している中で見る自動車（バス、乗用車など）、工事現場で見か見ない自動車（クレーン車、ブルドーザーなど）といったように見る場所を意識しながら、分かりやすい順序として「見たことのある車→見たことのない車」の順序で並べられている児童が多かった。
- ・「深く考える」ということは思考回路が具体的にどのようなものであるかの共通認識が必要だと思う。
- ・単元ゴールの設定が工夫されていて「毎時間そのゴールに向かっていく」ということが感じられた。本時のめあても分かりやすく教師の発問でさらに深く考えることにつながっていたと思う。
- ・暗唱やスモールトークでは既習を生かしていた。子供達もおそらく何度も経験しているため、とても積極的に抵抗なく全員が活動できていて素晴らしかった。導入や展開でも随所に伝え合う場面が設けられており、一人一人が根拠や理由を伝えられていたことで、伝え合いの経験から考えを深められていたように思う。
- ・「理由はどうして？」など、発問を工夫していることが伝わりました。また、授業前半では全体に対して、後半では個別で何度もくり返し発問されていたので、子供達は無意識のうちに論理的に思考していたと思います。

3 学年を参観した方のご意見

- ・すがたが変わった後の大豆をグループ分けすることで、思考を整理できていた。
- ・大豆がもととなった加工食品がどのような仲間分けとなるのか、事前に整理、名前付けしておくことで、付箋を使った手立てが有効に働き、自分の考えや仲間分けなどで思考の組み立てが児童にとって取り組みやすいものになったのではないかと。
- ・「自分の考えをもち相手と比べること」については、最終的に立場が変わらなくても、考えの視野を広げられれば手立てとして有効であると思う。いずれにせよ、授業を展開する教師側が「深い学び」の具体的な姿を定義し、児童が他者、教材、自分自身と対話をして、主体的に取組める魅力的な学習課題の設定が重要であると思った。
- ・付箋を使って自分の意見を書いて発表することで、自分の意見を伝えることが苦手な児童も話し合いに参加することができたと思う。
- ・国語コーナーに今まで学習した「言葉と遊ぼう」や「こまを楽しむ」の説明文の構成が掲示してあり、本時でも以前に学習したことをふり取りながら説明文の文章構成を意識させているのがとても分かりやすかった。伝え合う活動でもたくさんの付箋を用意して、どの子も話し合う前からやる気に満ちていて、伝え合いも活発であった。タブレットを使って話し合うこともできたかもしれないが、今回は模造紙に付箋を貼るといった活動が子供達の参加意欲を高め、話し合いの集中力を高めることにつながっていたと思う。

5 学年を参観した方のご意見

- ・思考を整理できるワークシートを活用していたことで、「社会は暮らしやすい方向に向かっているのか」という終末に向かって、資料をもとに自分の主張を強固にするための根拠をしっかりとって発言できていた。
- ・ワークシートによって児童自身が資料から何を読み取り、それからどのようなことが考えられるのかが自他共に分かりやすくなっていた。
- ・深めることについて、自分が見ていない感じてないことに触れるためには他者の意見と比較することが大切だと思った。また、他者の意見を聞き、自分の意見に立ち返ることで自分の視点、見方を広げたり気付いたりできると思う。
- ・自分の意見をもって話し合いに臨み、同じ題材を選んだ友達と意見を交わすことで、プリントに考えを付け加えたり、考えを変化させたりしている児童の姿が見られた。これは意見を伝え合うことで互いに比較し合い深め合っているものであると感じた。
- ・「クラスメイトの意見を聞き、自分の考えを伝える」という活動から、「社会はどうなっていくのか」という課題を設定することで、深く考えるという過程につなげていた。子供達が考えるためのプロセスが細やかに立てられていたため、「何をすべきか」ということが分かりやすかった。また、前時との違いを見える化することで、自分の成長を実感できるワークシートの工夫も素晴らしいと感じた。